



特定非営利  
活動法人

茨城県がん地域医療を考える会

会報第11号

## 第5回 NPO 法人茨城県がん地域医療を考える会総会に当たって

NPO 法人 茨城県がん地域医療を考える会  
理事長 佐藤好威

H28年度国は、がん対策基本法の改訂版に、平成27年のがん対策協議会で議論された、「これまで、がん対策推進基本計画に明確な記載がなく、今後、推進が必要な事項」として、提案された下記項目：1. 将来にわたって持続可能ながん対策の実現、2. 全てのがん患者が尊厳をもった生き方を選択できる社会の構築、3. 小児期、AYA世代、壮年期、高齢期等のライフステージに応じたがん対策を明記した。当会は、昨年公開講座報告集に記載したように、新がん対策基本法は、「病巣からヒトへ」軸足を移動したと解釈し、29年度を、当会の目的に準拠し、「サロン活動の質的レベルアップとがん教育」に注力してきました。一方、会としては、期せずして会員入れ替わりの年度になり、戦力が数的には減りましたが、県がん対策関連会議の傍聴、医療施設との交渉、学校当局との打ち合わせ、ホームページ(HP)更新の日常化、会計担当者の自立等、質的には高まった年となりました。以下に、この1年の特徴を振り返ってみます。

今年の活動の**特徴の一つ**は、新規加入者K夫妻の活躍と、当会開設当初から在籍したGさん並びにしろやまざくらに古くから参加していたKさんらのがん授業での初口演など、新しい力が生まれ力を発揮したことです。まずは、HP

(<http://ibaraki-cancer.com/>)が機能し、会の活動日誌がWeb上で記され公開できるようになりました。当会の、**活動公開性**が定着したと思っています。次いで、がん授業で、当会員演者が、生徒の顔をみながら、ゆっくりと説得力ある体験話をしてくれました。「経験は個別的であり、そこに一人の人間の真実がある」という概念が広まる今日、がん教育はまさにその先駆けになってきたと思います。

二つ目の**特徴**は、医療者・教育者・行政がより患者家族の立場によりそい、協働してくれました。今年度の交流会・公開講座での植木先生の教育講演、サロンサルビアの赤荻先生の活動報告、勝俣先生の「がん情報に関する見極め方」の講演など、医師のあるべき姿や患者家族

との「納得」関係樹立の大事さ、そして、現役教師ががん教育の有意性を語り、各病院のサロン窓口担当者が積極的に現状を報告し、がん行政担当者や就労担当者が公開の場で、がん対策・就労対策について口演・発言をしてくれました。まさに、当会定款の目的に順ずる活動が出来ました。加えて、県総合がん対策推進計画検討委員会や県総合がん対策推進会議の会場・開催時間が県庁周辺と15:00からに変更され、より傍聴しやすくなりました。

**第三の特徴**は、改正がん対策基本法の基本理念第2条の第4項「がん患者が尊厳を保持しつつ安心して暮らすことのできる社会の構築」を目指すという文言が、より具体的積極的に県がん政策で語られるようになりました。特にがん患者の尊厳は、条文上や推進計画にも定義がなく、これを実現するには、何をなすべきか悩みましたが、がん患者の尊厳とは「患者個人個人の価値観、人生観、死生観の尊厳」であり、それらを個々人が持てるようになり、理解し合えるようになる社会の構築」と解釈できました。その観点から見ると、がん教育は「自分らしく生きる」ことの学びであり、医師不足は単なる数的解消ではなく、患者家族と十分なコミュニケーションのできる医師の育成であり、心身ともに自立するためのリハビリ関連対策・地域医療対策等の充実化と理解され、理念の活動目標化も見えてきました。

**第四の特徴**は、H30年3月16日開催の茨城県総合がん対策推進会で、第四次推進計画が最終討議にかけられました。一般から投稿されたパブリックコメント、24項目と委員からの提案6項目が検討され、計画に追記されました。当会からの提案が、4~5項目議題となり、音楽療法の件以外が採択されたように思います。特に、総論で改訂基本法の理念の項(尊厳)が追記、全体目標で、「患者本位の医療を行う医療者の育成」が付記されました。



がん対策基本法がより高度になり鮮明化してきている現在、患者会活動はより広く議論され、より活発に進められなければなりません。大事なことは、各自の価値観人生観です。改めて、自分の立脚点を見つけ、自分らしい生き方を築いていきましょう。

## 茨城県総合がん対策推進計画—第四次計画—(案)」のパブリックコメントと回答

「茨城県総合がん対策推進計画—第四次計画—(案)」に対するパブリックコメントが募集され、下記のような項目を提言しました。ご意見赤字の部分が、採用され討議にかけられました。音楽療法は見送りとなりました。

氏名(法人・団体名)※法人・団体の場合、代表者名も記載して下さい。
NPO 法人 茨城県がん地域医療を考える会 理事長 佐藤好威
【ご意見】※該当箇所(ページ数, 行数, 項目)とご意見の内容を記入して下さい。 P3 概要: <u>改正がん対策基本法の基本理念が記されていない。改正上最も大事な変更です。ぜひどこかに記載ください。なお、多くの人が見やすいように字を大きめにしてください。補足乍ら、がん条例のパンフの字も小さすぎて読めません。</u> 総論 p2: メインスローガンは簡潔明瞭でいいですが、サブスローガンの「 <u>参療</u> 」は、どこかで、掘り下げて解説が必要かと思えます。特に、改正がん対策基本法の第2条4項(基本理念)との <u>関連性</u> を明記してほしい。 総論 p5: 「 <u>主体的に参画</u> 」の内容は文脈から言ったら、予防や検診だけでなく、「 <u>自身に提供される医療</u> 」全般が対象になると思えます。 総論 p7: 全体目標の(3)の「 <u>がん患者が尊厳をもって</u> 」のタイトルは、改正がん対策基本法の理念とがん条例に準拠しているが、「 <u>尊厳</u> 」の定義が不明で、環境整備にのみ記述が終始しています。患者本人が保持すべき尊厳とは何かを突き詰め提言し、その尊厳はどのようにしたら自覚し保持できるか示してほしい。 総論 p7: 「 <u>適切な医療に関する項では、患者本位・患者の立場に立った医療であるならば、患者が「納得」を得られる対応(医師・医療機関の説明力)力を育成強化するという文言も必要かと思えます。加えて、転院の自由度の拡大も必要かと思えます。</u> 」 第1章 p11: がん教育に関し、 <u>県行政の何処が窓口なのか</u> わかり。また、 <u>県としての方針企画も出来ていない</u> 。 <u>尊厳を保持して生活し、医療を受けるために、無関心層への働きかけが必要だ</u> と言うこと強調すべきかと思えます。 p10: <u>予防推進員の活動が見えません。実績が不明です。がん教育への関連性の理解が行き届いているのでしょうか?がん患者・家族との協働促進をその活動内容に明記すべきかと思えます。</u> P14: 施策の目標「 <u>がんに関する正しい知識の普及</u> 」の項目に、 <u>リスクに関する知識だけでなく、生き方、医療を受ける姿勢</u> においての <u>基本理念</u>

として、「尊厳を持った生活とは」を加えるべきかと思えます。  
第3章 p22: チーム医療体制の中に、リハビリと並列で音楽療法を加えるべきかと思えます。豊かな人生観や死生観を築くうえで、音楽の効用は大きく、必要不可欠と思えます。

## 空っぽの図書館

川澄敬子

空っぽの図書館は足下にある  
ベルリンのベーベル広場  
フンボルト大学やオペラ座に囲まれた広場の中央に  
正方形のガラス板の窓があり  
深さ5メートル30センチの閉じられた図書館には  
20000冊を収容できる14段の空っぽの書架が並んでいる  
ここはナチスの焚書事件の記念碑  
1933年5月10日  
5000人の学生たちがたいまつを持って広場に集まり  
非ドイツ的と称された書物を次々に炎の中に投げ込んだ  
ハイネもトーマス・マンもヘッセもケストナーも  
20000冊の本が燃え上がり黒焦げの灰になった。  
空っぽの図書館の収容数は燃やされた書物の数に相当する

戦争の時代の日本では書物は検閲された  
権力の意に沿わない本を所有するだけで罪になった  
作家や詩人たちは  
作品に黒く墨を塗られ発禁処分を受けた  
やがて多くの作家たちがなだれを打つように  
権力に迎合し侵略戦争賛美の作品を書くようになった  
その時代の作品を読むに耐えないみじめなものと  
断罪することはたやすいが  
今 物も言えない暗い時代が迫っていると思わないか  
昨年成立した特定秘密保持法の秘密は  
権力を持つ側が決めるのだ

空っぽの図書館のガラス窓には  
その日空模様が映りこむ  
激しい雨がたたきつける窓からは書架は見えない  
晴れた日には空行く雲がガラス窓を通り過ぎる  
あなたには内なる書架があるか  
あなたには誰にも左右されない自分だけの書架があるか



## 在宅医療

J.H

H20年突然の「がん告知」  
青天の霹靂。絶望のどん底  
へ突き落とされました。一瞬で世界が変わってしま  
いました。無知の私にはがん＝死。「主人は死ぬん  
ですか？」先生は無言。「治ります」と言えなくて  
も「全力を尽くします。一緒に頑張りましょう。」  
の一言が言えたなら・・・。

別の治療法を求めて次の病院へ。先生は「共に  
頑張りましょう!!」と言って、主人の手を力強く  
握って下さいました。ホッとしました。その一言  
にすがって8年間頑張ることが出来ました。不安  
いっぱい患者と家族にとって、信頼しすべてを  
お任せできる病院の先生に出会えることは最高の  
プレゼントです。

手術・治療をして病気を撃沈できるうちは良い  
のですが、病気の進行とともに治療法がなくなり、  
痛み、栄養障害、体力消耗等に苦しみました。が、  
病院の外来では苦しみは取ってくれませんでした。  
緩和ケアを進められました。元来、入院が大嫌いな  
主人は緩和ケアに対しても「死までの期間を病  
院で過ごす」という認識しかなく、到底受け入れ  
られませんでした。

8年の間に私は死を受け入れる覚悟を考え始め  
ました。私の願いは2つ。主人が苦しまずに平穏  
に死を迎えられること。嫌いな病院ではなく生ま  
れ育った自宅で家族との生活の中で死を迎えられ  
ること。

テレビ放映で知った在宅医療。すぐ近くにある  
ことを知り救われました。在宅医療を選択し、茨  
城診療所みとの西村先生と皆様に1か月お世話に  
なりました。初めてお会いした西村先生は優しく  
穏やかで、私たちに寄り添ってくださり、理想の  
先生に出会えた嬉しさで涙が出るほどでした。病  
院から見放されたような不安感の中、一切の不安  
は「どうしたら主人の痛みなどの苦しみを取っ  
てあげられるか」「緊急急変の時の判断は？夜中な  
どに起こったときは？」でした。その解決は在宅医  
療にありました。

驚くほどの速さで酸素吸入器、喀痰吸引器、痛  
み止め、解熱、栄養剤の点滴器が運び込まれ、ケ  
アマネージャーと連絡を取り合い、ベッドの手配、  
マッサージ・リハビリの手配、レントゲンも、食  
道切開の手術も、その場でOKです。

朝に晩に、二人ずつ派遣してくれる看護師さん  
たちは「お父さん、お母さん」と明るく元気に声  
をかけて励ましてくれました。正直、辛く大変な  
日々の1か月でしたが、皆さまの支えのおかげで  
乗り切ることが出来ました。

亡くなる前日、様態が急変。夕方には、長男、

三男家族、孫達で主人を囲んで談笑(看護師さん  
の「(患者さんは)聞いているのよ、明るくしてね」  
の言葉で)。京都出張から夜中に駆け付けた次男は  
一夜をともにできました。次の朝、一瞬のうちに  
静かに息を引き取りました。死亡診断を含めすべ  
ての処置をお任せして、私たちはずっと主人と一  
緒に居られました。ありがたかったです。

いつも隣にいてくれた主人が居なくなって、悲  
しみ寂しさは消えることはないけれど、「死ぬ」と  
言う意味がわかってきました。必ず迎える死。恐  
れではなく「すべての繋がりを慈しみ愛おしんで  
時を紡ぐ、の気持ちで穏やかに死を迎えられたら  
と思います」。立派な人生を歩んできた主人が、最  
後、身体が衰弱しても精一杯の思いで病気に立ち  
向かって立派に死を迎えた様子を、自宅だからこそ  
私たち家族、息子達、孫達皆で見守ることが出来  
ました。その生き様、死に様は大きな宝物財産と  
なってこれから生きていく私たちに誇りと力を与  
えてくれます。

我が家にとっては、在宅医療は最高の選択だっ  
たと感謝しています。高齢となっていく私にとっ  
て、茨城診療所みとの皆さまとの繋がりは私の心  
の安心です。この絆は亡くなった主人からのプレ  
ゼントと感謝の思いで一杯です。

## 「ペチカ」の思い出

後藤睦子

ペチカ

作詞 北原白秋 作曲 山田耕筰

- 1 雪の降る夜は、楽しいペチカ  
ペチカ燃えろよ お話ししましょ  
昔 昔よ 燃えろよペチカ
- 2 雪の降る夜は 楽しいペチカ  
ペチカ燃えろよ表は寒い  
栗や栗やと 呼びますペチカ
- 3 雪の降る夜は 楽しいペチカ  
ペチカ燃えろよ もうじき春よ  
今に楊も 萌えましょペチカ



子供の頃、冬になるとラジオからこの曲が流れ  
て来ていた。北原白秋の時代になぜ? 「ペチカ」  
なのかな? と大人になって思うようになりまし  
た。前にシリーズで買っていた「日本の歌、ここ  
ろの歌」と言う本とCDのなかにその謎が書いて  
ありました。

日本の田舎だったら、昔は「囲炉裏」で昔話を  
聞くことが出来ましたが、大正12年に南満州教  
育会というのがあって、そこからの依頼で作ら  
れ、満州唱歌集というのに掲載されたものだそう  
です。

「ペチカ」とはロシアでは暖房を兼ねて、パンを焼いたり煮炊きしたりしていたそうです。日本の「囲炉裏」をやはり想像します。私が会津の田舎に疎開していた時、やはり冬になると大雪が降り、囲炉裏にマキをくべて、その回りには子供も大人もいつもおり、お酒を飲んだり、話しをしたりしておりました。田舎の家はわらぶき屋根で、囲炉裏のところに自在カギがあり、天井は煙りを出すために開いていました。そこから雪が舞い落ちる時がありましたが、寒くなかったような気がしました。

今は各部屋に暖房があり、家族団らんの時間が薄くなりました。「ペチカ」のCDを聞いていたら「ペイチカ」と歌っている。何年か前に、多分ペギー葉山だったと思うが、やはりペイチカと発音していて、私は間違えて覚えていたんだと思っていましたが、倍賞千恵子は「ペチカ」と歌っていました。

北原白秋は「ペチカ」だったそうだが、耕筆が曲をつけるとき「ペイチカ」としたのではないかという説があるそうなので、どちらで歌ってもいいらしい

この頃の私はやはり今の歌にはついていけないしわからないです。古き昔の日本の情景が浮かんで来る歌の方が聞いていても気持ちが落ち着き癒されます。そういう年齢なのですね。

## がん患者サロンの近況と予定

### しろやまざくら

下表は平成30年4月以降の勉強会の予定表です。

月 日	勉強会テーマ	演 者
4月17日	新年度スタート がん患者の尊厳とは	米野副院長挨拶 臨床心理士阿部
5月15日	肺がん治療の昨今	未定
6月19日	乳がんと転移不安	未定
7月17日	サロン開設5周年セ レモニー 講演とコンサート	植木名誉院長講 演・医師看護師 有志演奏

### ハマナス

下表は平成30年4月以降の勉強会の予定表です

月 日	勉強会テーマ	演 者
4月26日	ヒトの尊厳と看護	診療看護師川崎
5月24日	入院がん患者の尊 厳と看護	病棟看護師
6月28日	CTとMRIの違い	診療放射線技師 長 菊池 一聡
7月26日	ヒトの尊厳を支え るMSWの仕事とは	医療社会事業専 門員 中山 裕暁

### なでしこ

下表は平成30年4月以降の勉強会の予定表です。

月 日	勉強会テーマ	演 者
4月5日	茶話会、ハーモニカ演奏	
5月10日	4周年セレモニー	
6月7日		

### 友部やまびこ

下表は平成30年4月以降の勉強会の予定表です

月 日	テーマ	講師
4月2日	リンパ浮腫とセル フケア	吉川院長挨拶 乳がん認定看護師
5月7日	胃がんのお話し	消化器内科部長 天貝賢二
6月4日	肺がんのお話し	副院長 鏑木孝之
7月2日	大腸がんのお話し	消化器内科部長 天貝賢二

## サロン情報



### サロン例会開催日

サロン名	開催日・会場
友部やまびこ	毎月第1月曜日 13:00~ 県立中央病院 PCU 病棟 5F
なでしこ	毎月第1木曜日 14:00~ 済生会病院丹野ホール
しろやまざくら	毎月第3火曜日 10:00~ 水戸医療センター患者教室
はまなす	毎月第4木曜日 11:00~ 茨城東病院療育訓練棟

### NPO法人茨城県がん地域医療を考える会事業

日 時	事 項
3月考える会例会	H30年度総会準備
4月28日定期総会	活動計画と新規役員の選出

### 編集後記：

本年4月で、当NPO法人も5年目を迎えます。悲喜こもごも、山あり谷ありの年月でしたが、パブコメ等での提言やがん教育への参加で、医療行政・がん対策に一定の貢献をしてきました。また、基本活動のサロン運営では、「がん患者の尊厳」を探求するなかで、サロンのテーマは、傾聴をおし自分の「価値観、人生観、死生観」を見つけ、築くことだと知りました。京都で6年、茨城で5年、合わせて10余年の患者会活動、十分に学ばせていただきました。 文責 佐藤

発行：NPO法人茨城県がん地域医療を考える会  
ホームページ：<http://ibaraki-cancer.com/>  
TEL/FAX 029-306-8406、  
mail:y-sato@blue.ocn.ne.jp